

市民プレス

SHIMIN PRESS

1月5日 第55号

発行人 特定非営利活動法人「市民フォーラム」
 編集人 原 昭二
 制作 デジタル工房
 E-mail hara@camelianet.com
 TEL 090 (3048) 5502
 〒353-0004 埼玉県志木市本町 2-4-43

市民の目線で市民が発信する地域情報紙
WEB SHIMIN
<http://shimin.camelianet.com>

CONTENTS

- PAGE 1
山手線は廻る
- PAGE 2・PAGE 3
東上鉄道開業記念運賃半額割引チラシ
歴史を綴く：聖護院門跡が廻った中世の道『廻国雑記』
- PAGE 4
Global Mind：プータン紀行 深瀬 克
- NPO 市民フォーラム編集
Creative Book 新書刊
『山手線は廻る-環状鉄道の誕生』 PAGE 1
『隅田川を渡る-橋梁物語』 PAGE 3

山手線は二分間隔で走る・・・道線の起点であった新橋と品川間を、このときすでに上野から高崎まで開通していた「東北線」と膨らむのでは・・・と思われる。つなぐための計画だった。

東海道線は、国が計画した日本国鉄の大量輸送に貢献しつつ、東北線は、国との協調で活動も、そこで「品川線」(品川と赤羽間)は、相互の合意によって明治十七年に着工された。

山手線の建設は明治五年(1872)にはじまった・・・明治新政府は新橋と横濱間の鉄道を開業、それから十数年後に品川線・豊島線を合わせ、山手線の西側が開通した(路線図①)。

一方、新橋駅と上野駅を直結する東側部分の建設は、どうだったのか。

明治初期から計画されていたこの経路は下町を縦貫し、銀座などの商業地域が所在していたので、線路を敷くことはあまりにも困難なことだった。

江戸時代に町並みがつくられた下町に対して、明治時代になっても、丘陵地帯の「山の手」にはまだ農地が広がっていた。東京中央停車場の建設案が浮上り、点として設けられた新橋を、日本



CREATIVE BOOK Bird's Eye

山手線は廻る

環状鉄道の誕生

朝は都心に向かい、また夕べは帰宅する乗客を運びつつ、放射状に広がる各線と結んで山手線は屈指の乗車率を誇る。山手線各駅近隣の空撮に加え、汽笛一声、明治初年に新橋から走り始めた鉄道建設の歴史を綴く。

新書判 240ページ(フルカラー) 定価 1260円(税込)

好評発売中 編集：NPO市民フォーラム 発売：揺籃社



商業地域に鉄道を敷くために考えられた苦肉の策は、「市街高架鉄道」の建設である。明治三十三年、いよいよ高架線の工事に着手したが、予算不足のため工事中断の危機に見舞われた。同三十九年鉄道が国有化されたので、高架工事が再開され、そして三年、ようやく明治四十二年に烏森駅(のちに「新橋駅」となる)が誕生、つづいて田町駅・浜松町駅が開業した。烏森と品川・新宿・池袋・田町・上野というルートが完成したので、はじめて電車が走り始めたが、しばしば電化される前の旅客用の汽車も走っていた。このころ、夜中を走る蒸気機関車の「汽笛」は、しみじみと心に沁みるものだったという。

翌年六月には烏森と有楽町間、



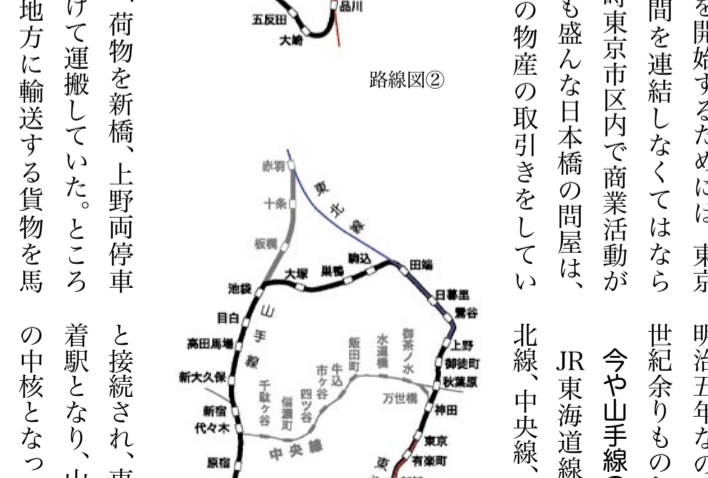
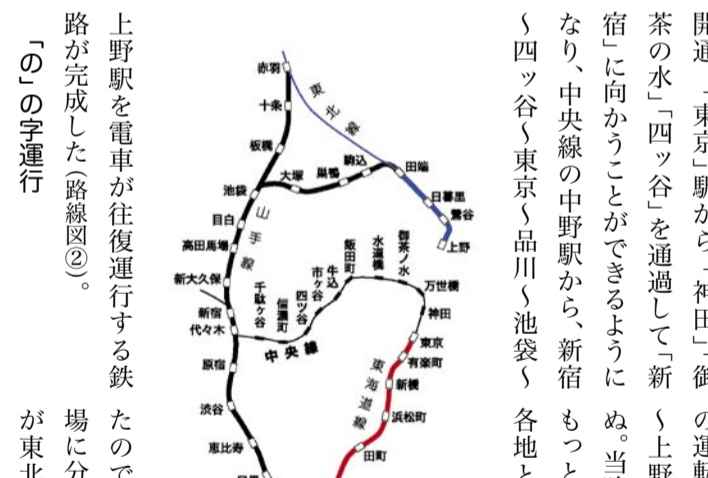
最大のターミナル駅だった「上野駅」昭和7年に落成した駅舎は現在も使用されている

上野駅を電車が往復運行する鉄道の完成した路線図②)。

「の」の字運行

中央線と山手線は相互に乗り入れ、中野を出た中央線の電車は、新宿、お茶の水を経て山手線に入り、外回り線をぐるりと回って、品川、目黒、渋谷、新宿、池袋、田端を通過しつつ上野駅へと向かう。内回りは逆に池袋、新宿、渋谷、品川、東京を通過して中央線に入り、中野まで、いわゆる「の」の字運転という運行が開始された。しかし大正十二年、関東大震災に

神田駅、秋葉原駅が出来上がった間もなく、十一月一日、山手線の環状運転はついに開始されたのである。思い起こせば、新橋と品川間の運行が開始されたのは



九月には有楽町と有楽町線へと延伸されたが、「呉服橋駅」は中央線として、東京駅が完工するまでの仮駅としてつくられたものであった。

東京駅舎が完工

中央線は辰野金吾の設計に決ま

り、明治四十一年基礎工事が始められ、六年半の歳月を経て大正三年(1914)12月、軍艦のような巨大な駅舎はついに完成した。

鉄道の発祥地としての「新橋」

駅は「汐留」に、また「烏森」駅は「新橋」と改称され、「呉服橋」仮駅は廃止された。大正八年三月、中央線の「東京」から「万世橋」が開通、「東京」駅から「神田」「御茶の水」「四ツ谷」を通過して「新橋」に向かうことができるようになった。当時東京市区内で商業活動がなり、中央線の中間駅から、新宿もつとも盛んな日本橋の間屋は、四ツ谷と東京と品川と池袋と各地との物産の取引を促している

JR東海道線、横須賀線、京浜東北線、中央線、総武線、埼京線など

明治五年なので、このときまで半世紀余りの年月が流れていた。

今や山手線の各駅は・・・

大正14年に環状運転を開始した時の山手線



えるが、当時、こうした歌風は一
般的だったようだ。

『廻国雑記』には、新座郡の現・
和光市域を詠んだ歌はない。しか
し、白子あたりを通ったり宿泊し
たりした可能性があり、東上線
光市駅南口から四〇〇メートルほ
どところに、道興准后がよんだ和
歌五首を刻んだ石碑が残っている。
この石碑は、新座郡新倉村の
名主であった鈴木家が天明年間
(1780)に建てた「うけら
庵」に在ったが、現在は大通りの
向い側に移動している。文化六年
(1809)に造立したもので、そ
のうちの一首は、『廻国雑記』に
は記されていない歌で、広沢をよ
んだものである。このあたり一帯
はかつて広沢の庄と呼ばれ、現在
も和光市や朝霞市に残っている。

京都から旅立った道興は...
北陸道を通って越後国に至り、
そこから南下して関東に入ったの
であるが、武蔵国には四回にわ
たつて出入りを繰り返している。
すでに述べたように、大塚の「十
玉坊」で長旅の旅装を解き、越年
して、この間に武蔵野の名所・旧
跡を訪れたのである。
通った路を推定すると、図に示
すように、相模から武蔵国の霞の
関(現・多摩市)を経て、多摩川
を渡り、恋ヶ窪(現・国分寺市西窓
ヶ窪)あたりは鎌倉街道の上道を
利用しているようだ。狭山市「堀
兼の井」から「やせの里」、「入間川」
に立寄り、「佐西の観音寺」に着く。
柳瀬川に沿って、宗岡(志木市宗岡)
を往復、また「河越」(現・川越市)
の常楽寺を訪れている。

中世という時代は...
古代より後、そして近世よりも
前の時代を指す。古くは西洋の時
代区分として使われてきたが、明治
のころ、日本でも歴史区分として「中
世」が使われるようになった。一般
的には、平氏政権の成立(1160
年)から安土桃山時代(戦国時
代末期)までをいう。
聖護院門跡は...
歴史上の人物の中には、多くの
人たちは全く知られていない
が、知っているひとにとっては、
興准后」と書かれるようになる。
准后とは太皇太后・皇太后・皇后
の三后に準ずる待遇を与えられた
人のことである。



廻国雑記の道 (東村山ふるさと歴史館が編集発行した企画展
図録「鎌倉街道と中世のみち」を参考にして制作した)

大名の家督争いとも複雑に連動し
て十一年も繰り返され、京都を
焼け野原にした。乱は一応の終息
をみたものの、時代は本格的な戦
国乱世に向かいつつあり、それは
武蔵国と同様であった。
道興准后が諸国巡歴の旅を始め
たのは、そうした最中の文明十八
年(1486)六月中旬のこと
で、古書の散逸を危惧して安永八
年(1779)、菅原道真を祀る北
野天満宮に刊行を誓い、江戸幕府
や諸大名・寺社・公家などの協力
を得て、古書を収集、「群書類従」
を編纂した。膨大な叢書で、古代
から江戸時代初期までに完成した
りて、
史書や文学作品、計1273種を
収め、寛政五年(1793)文
政二年(1819)、木版で刊行さ
れた。この書は史学・国文学等の
学術的な研究に、計り知れない貢
献をしている。
道興は風流な旅をしたように受
けとられるが...

『廻国雑記』は、長い間著者が
不明であり、入手も困難だった
江戸初期、この書は『宗祇廻
国雑記』といわれ、連歌師の宗
匠だった宗祇が著したものとさ
れられていた。しかし、文政八年
取め、寛政五年(1793)文
政二年(1819)、木版で刊行さ
れた。この書は史学・国文学等の
学術的な研究に、計り知れない貢
献をしている。
道興は風流な旅をしたように受
けとられるが...

室町幕府の八代将軍足利義政
の幼いころ出家し、やがて聖護院門跡となった。
聖護院とは、聖体(天皇)護持
の寺というところから付けられた
名で、門跡とは、皇族や上級貴族
が入る特定の寺、またその寺の統
括者につけられた呼称である。こ
のころ聖護院門跡は修験道の本山
派を統括する地位にあり、その後
園城寺(三井寺)の長史、熊野三
(1467~1477)は、有力な

証明した。
また幸いにも、のちに塙保己一
が編纂した国文学・国史を主とす
る『群書類従』に掲載
されたため、この書の存在が明ら
かになったのである。
塙保己一は延享三年(1746)
に生まれたが、幼くして失明した。
しかし学問の世界に果敢に挑戦
し、古書の散逸を危惧して安永八
年(1779)、菅原道真を祀る北
野天満宮に刊行を誓い、江戸幕府
や諸大名・寺社・公家などの協力
を得て、古書を収集、「群書類従」
を編纂した。膨大な叢書で、古代
から江戸時代初期までに完成した
りて、
史書や文学作品、計1273種を
収め、寛政五年(1793)文
政二年(1819)、木版で刊行さ
れた。この書は史学・国文学等の
学術的な研究に、計り知れない貢
献をしている。
道興は風流な旅をしたように受
けとられるが...

矢倉などを相かねて侍りけるに
や。遠景勝れて、数千里の江山
の前に尽きぬとおもほゆ。あ
るじ杯取り出して、暮過ぐるま
で遊覧しけるに、
一閑乗興履登楼 遠近江山分幾幾
落雁斗霜風颯々 白沙翠竹斜陽幽
興に乗じて高樓に登り、遠近
の山河が幾つもの国を区切って
いる様子を見たのである。お
そらく丹沢や奥多摩や奥秩父、
さらには遠く筑波や上州の山まで
見えたのではないだろうか？
河越といへる所に到り、最勝
院といふ山伏の所に一夜やど
り、
武蔵の境もしるき河越の里
此の所に、常楽寺といへる時
宗の道場侍る。
とくろ沢といへる所へ遊覧に
罷りけるに、福泉といふ山伏、
観音寺にてさきえをとり出しけ
るに、薯芋といへる物肴にあり
けるを見て、俳諧
野遊びのさかなに山のいもそ
へてほり求めたる野老沢かな
大石氏の館に再び招かれて...
野遊のついでに、大石信濃守が
館へ招引し侍りて、鞠など興行
にて、夜に入りければ、二十首
の歌をすすめけるに
(中略)
大石信濃守、父の三十三回忌
とて、さまざまの追善を致しけ
るに、聞き及び侍りければ、
小経を花の枝につけて贈り侍る
とて、
散りにしはみそち三年の花の
春けふこの本にとふを待つらむ
に招かれて...

ある時大石信濃守といへる武
士の館にゆかり侍りて、まかり
を改めてその歴史を繙くことに
したい。



武野神社

平林寺境内にある野火止塚

NPO市民フォーラムが編集する
CREATIVE BOOK 新書判
好評発売中!
新書判 240ページ・フルカラー
定価1260円(税込)
全国書店で発売中
ネットでも購入できます。
発行:株 ヒューマン・クリエイティブ
発売:協栄社
電話:042-620-2616
CREATIVE BOOK 10号
「隅田川を遡る」橋梁物語
空撮写真のほか多彩なカラー写真を
添えて隅田川に架かる橋梁と両岸
の賑わいを訪ね、江戸時代からの歴史を語る。

